

- 24 停車右郭邊 車を停む 右郭の邊
 25 宛然開小閣 宛然たり 小閣を開けば
 26 觀者滿退阡 觀る者 退阡に滿つるを
 27 嘔吐胸猶逆 嘔吐して胸猶ほ逆らひ
 28 虚勞脚且癱 虚勞して脚且つ癱めり
 29 肥膚爭刻鏤 肥膚は争ひて刻鏤す
 30 精魄幾磨研 精魄は幾ど磨研

【四段】

この十句では、太宰府到着後、謫居に移るまでの状況を記す。三十一句・三十二句、三十三句・三十四句の詩内容は、いずれも太宰の地での到着から謫居に移るまでの状況、つまり太宰の地に着いて仮に与えられた宿所から数日を経て荒れ果てた、これからの宿舎となる官舎に移る、その心情を詠んでいるものと理解したい。

- 31 信宿常羈泊 信宿は常に羈泊
 32 低迷卽倒懸 低迷は卽ち倒懸
 33 村翁談往事 村翁往事を談りて
 34 客館忘留連 客館留連を忘る
 35 妖害何因避 妖害何に因りてか避けむ